

『紡』

つむぐ

「紡ぐ」という言葉は、元来、綿や繭から繊維を引き出し、撚り合わせることで一本の強い糸を作り出す作業を意味します。この一本一本の繊維が寄り集まり、やがて豊かな布となるように、私たち生徒一人ひとりの個性や努力もまた、学校生活という大きな織物を作り上げる大切な要素です。生徒一人ひとりが、自分の役割を果たし、小さな努力や成果を一つひとつ積み重ねることが、未来の自分、そして学校全体の希望へとつながり、よりよい山形二中を創ることにつながるという意味を込めました。

昨年度の生活を通して、改めて個人が考えて行動することの大切さや、自分のことだけでなく周りのことを考える必要性を感じました。今年度は昨年度の「礎」の上に、新たな活動を積み上げていき、二中をさらに良くしていきます。

私たちはいずれ社会に出ることになります。そのときには、個人が考えて行動することが不可欠なものになると思います。一つ一つの考え、行動が積み重なることにより、より良い二中が創られると私たちは考えます。そのため、このスローガンを設定しました。

スローガン達成のため、以下の2つの目標を提示します。

〈2つの目標〉

1. 個人が自律する（考える）

「自律」とは自分の中に規範を設けてそれに従って判断・行動する「自分を律する」という意味です。生徒一人ひとりが学校生活の主体としての自覚を持ち、他者と協力してより良い学校を創り上げていくことが大切です。今、二中生には、時間を守れない、生活にメリハリがないなど、自分の行動を制御できないという課題があります。そこで、生徒一人ひとりが自律し、何をすべきか自ら考え、行動できるようにすることを目指します。

2. 周囲に目を向ける（慮る）

SNSの普及などにより、個人の意見は発信しやすくなりました。しかし、その中で自分の利益だけを求めるのではなく、他者の視点に立つことが大切です。「他者の考えを理解する」「思いやりを持って行動する」これらの行動によって生徒同士の考えが紡がれ、ひとつのものを創造できるはずです。そして、安心して自分の考えや思いを発信できる学校を目指します。